

共生・公正・創造



東日本ジャーナル

http://www.jrtu-east.org/

JR東日本労働組合

〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号

TEL (NTT) 03-3453-2107 (JR) 057-2290

発行者/渡辺 求 編集者/久保田 勉

1部20円 (但し組合費を含む)

職場討議資料

第3回定期大会運動方針(案)特集号

JR東日本に働くすべての労働者のために

JR東日本労働組合が先頭に立ち

労働条件の改善を通じ、

安全で働きやすい職場を構築しよう!

7月11日、東京都・ホテルラングウッドにおいて第3回定期大会を開催します。結成から、2年が経過しようとする今日、12地本体制を確立し、組織強化・拡大、安全・安定輸送、働きやすい労働条件の確立にむけて、具体的な取り組みを進めてきました。第2回大会以降新入社員を含め、6名の新しい仲間を迎える事ができました。第3回大会は、さらに運動を進ませ、大きく発展する方針を確立する重要な大会となります。大会に向け、全組合員の積極的な職場討議を要請します。

I はじめに

私たちは、昨年7月12日に第2回定期大会を開催し、安全・安定輸送の確立をはじめ、労働条件の改善、2015春季生活闘争勝利、JR労働運動の大同団結に向けた民主化の完遂と組織の強化・拡大に全力で取り組んできました。

昨年の大会以降、6名の仲間が東日本ユニオンの戦列に加わりました。とりわけ、今年の4月と5月には長野と新潟で、新入社員の東日本ユニオン加入を勝ちとるといった大きな成果を挙げる事ができました。特に、新入社員から選出される労働組合としての第一歩を踏み出したことに自覚と責任を持ち、さらなる組織の強化・拡大に全力を挙げなければなりません。

昨年2月の京浜東北線・川崎駅構内列車脱線事故に続き、山手線・神田駅・秋葉原駅間での電

化柱倒壊事故、郡山駅構内での架線切断、鶴見駅(新子安駅間)で線閉表示板と列車が衝突するという事故が発生しています。昨年1年間で、JR東日本の職場で10件の死傷事故が発生していることから、安全確立を最優先課題として「JR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」をめざす取り組みを強化します。

本部は5月、「JR東日本における新しい労働組合運動の創造に向けた組織方針草案」を示しました。国鉄改革以降から28年、JRの労使関係の根幹にあった「差別・選別・排除」という負のスパイラルから組合員を解放し、JR労働運動の一元化と大同団結を実現するために、今日までの組織拡大の取り組みを各級機関が総括し、次代にむけた一歩を踏み出さなければなりません。

組織化の遅れているグループを尊重する社会を取り戻さなければなりません。

勝ち取りました。また、準組織内候補として東京都北区議会議員選挙に立候補した大畑おさむ候補も、7選を果たしました。来夏に実施される参議院議員選挙では、安倍政権の暴走に歯止めをかけるべく、JR連合推薦候補を中心に民主党の勝利をめざして取り組みを進めます。

東日本ユニオンとして、JR東日本における新しい民主化の共同戦線の構築と労使関係改善の課題を明確にして、労組の垣根を越えた連帯と交流を通じてJR内多数派形成のための結集軸へと成長していくために、代議員各位の真摯な討議を要請します。

この法案は、専守防衛を維持しながら、自衛隊が様々な脅威に対して「切れ目」なく活動できるようにする内容で、日本の安保政策の歴史的大転換点と言えます。戦後70年、平和な日本を支えてきた憲法9条が骨抜きにされ「戦後から戦前」への転換が目前に迫っています。労働組合として、戦争政策に反対の立場を明確にします。

昨年2月23日に発生した京浜東北線・川崎駅構内における列車脱線事故に続き、2015年4月12日に山手線・神田駅・秋葉原駅間で電化柱の倒壊事故が発生し、4月29日には東北新幹線の郡山駅構内で架線切断により、長時間にわたってお客さまに多大なご迷惑をおかけしました。また、6月1日には京浜東北線・鶴見駅・新子安駅間において、線閉表示板と列車が衝突するという昨年の川崎駅構内での脱線事故と類似した事故が発生しています。いずれも大惨事ならぬか、2014年度は協力会社社員5名の死亡災害が発生しており、同じく5名の方たちに三大労災が発生しています。いずれの事故も、所属していた協力会社自体の安全管理が問われるのは言うまでもありませんが、事故の背景にある工期の問題や作業環境、安全指導など、JR東日本のマネジメントを同時に問わなければなりません。私たちがめざす「JR労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」は、未だ道半ばです。労働組合の立場から

安全の確立に向けたたたかいをつくりだします。各業種でアウトソーシングを進める会社に対し、安全の確立を通じた諸施策の検証をはじめ、JR本体、グループ会社などで働く非正規社員の組織化も積極的に取り組み、本部・地方間との連携はもとより、新たにつくりだす業種別協議会とともに、労働条件の向上、職場環境改善へと広くつなげていきます。

ある2500名組織の実現をめざします。今日まで組合員一人ひとりにそれぞれの「歴史」があります。「差別」「選別」「排除」というJR東労働運動の統一と大同団結で「旗を守る」「仲間を守る」ために歯を食いしばって闘ってきた歴史、一方で「差別」「選別」「排除」の一翼を担い、およそ労働組合運動とは言えない「労働者解放運動」を担ってきた「負」の歴史を持つ組合員もいます。私たちは、そうした一人ひとりの歴史や事実と向き合い、感情を乗り越え合い、認め合い、結果を守るために、戦争政策に反対してまいります。

II 主な経過と総括について(略)

III 情勢の特徴(略)

IV 運動の基調

2015年度において、最優先課題である安全の確立を基礎として、主体的に私たち東日本ユニオンが「JR労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」をめざします。

また、2015春季生活闘争と期末手当(冬・夏)の取り組みにおける成果と課題をもとに、組合員一人ひとりの要求から組織の要求をつくりあげ、2016春季生活闘争をはじめとした労働条件向上の取り組みを進めます。

本年5月に「JR東日本における、新しい労働運動

の創造にむけた組織方針草案」を策定し、職場討議資料として発しました。各職場、各地方で草案を豊富化し「自らの方針」へと高めていくことを目的に提起しました。私たちがめざす「新しい労働組合運動の創造」と「民主的労使関係の構築」を通じて、組織強化・拡大を勝ち取り、JR労働運動の統一と大同団結を成し遂げなければなりません。

政府は集団的自衛権の限定的な行使を可能にするなど柱とした「安全保障関連法案」を閣議決定し

安全の確立に向けたたたかいをつくりだします。各業種でアウトソーシングを進める会社に対し、安全の確立を通じた諸施策の検証をはじめ、JR本体、グループ会社などで働く非正規社員の組織化も積極的に取り組み、本部・地方間との連携はもとより、新たにつくりだす業種別協議会とともに、労働条件の向上、職場環境改善へと広くつなげていきます。

2015年度年末手当のたたかい及び2016春闘は、2015春季生活闘争と期末手当(冬・夏)の取り組みにおける総括をもとに取り組みます。

2016春闘においては「力の強い労働組合が賃上げ相場を形成し、交渉力の弱い企業の底上げを図る」という、春闘が持つ本来目的を今一度捉え返し、私たちが主体的にJR春闘をけん引すべく、JRで働く者の力の結集をめざします。また、新しい人事・賃金制度下において、ベースアップの位置づけ、要求方法、根拠、配分の求め方など、検討すべき課題が明確になりました。全組合員とともに議論を積み重ね「JR春闘の再構築」を図ります。第2回定期大会以降、6名の新しい仲間を迎えまして、その加入に至る一人ひとりの経過が貴重な教訓であり、生きた教科書といえます。

不変である職場活動を基軸に、組合員一人ひとりが持つ英知と魅力を最大限に発揮し、絶えず進化を求め、新入社員をはじめとした若手社員の負託に応え得る組織をめざし、創

とを第一義として、新生「JR東日本労働組合」を結成しました。その結成に至る道筋は、まさに私たちがめざし進もうとしているJR労働運動の統一と大同団結と同じ道筋です。一つの歴史をつくりあげた者として、さらに団結を強化し、現状を変革する道を進みます。

戦争によって犠牲を強いられるのは、私たち労働者であることは幾多の戦争が証明しています。労働者として、鉄道労働者として、仲間と家族を守るために、戦争政策に反対してまいります。

V 当面の活動方針について

1. 組織強化・拡大の取り組み

- ① 2500名組織の目標実現をめざします。
- ② 「JR労働運動の統一と大同団結」の実現にむけ、あらゆる取り組みを進めます。
- ③ 「JR東日本における、新しい労働運動の創造にむけた組織方針草案」の豊富化にむけた議論と行動を進めます。
- ④ 新入社員の加入にむけた取り組みを進めます。
- ⑤ 「地本代表者会議」「組織担当者会議」を適宜開催し、組織の現状と拡大の取り組みにむけた情報の共有・強化を図ります。
- ⑥ 地方本部間やブロック別の交流や学習会を開催します。

